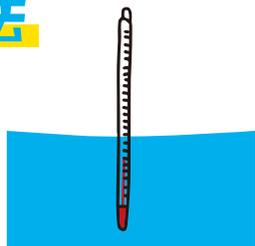


川を調べよう！ 調査方法

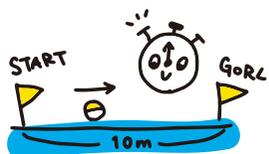
1 水温

陽の当たらない水中に水温計を浸けて4分間測る。



2 流速

釣り用の丸い浮きを上流から流します。10m地点を通過する時間をストップウォッチで測り流速を計算します。



3 川底の状態

川底の様子(砂、泥、岩石、コンクリート等)や水のにおいを記録します。



4 川幅と断面図

川幅は、対岸までの距離を測ります。測れない場合は近くの橋の上で測ります。断面図は、川幅と、水深を50cm~1m間隔で測り記録します。



5 生き物探し

5分間かけて水中の生き物を探します。植物の生えている場所や、石の底にいる生き物を探ります。



調査のときに注意すること

- ・調査した生き物は元いた場所に帰しましょう
- ・調査は3人以上で行いましょう(大人の人といきましょう)
- ・川の流れの速さを確認しましょう(川の流れは思っている以上に強い)
- ・川底がよく見える水深 30cm 以下のところで調査しましょう(これより深いと危険です)
- ・長靴や胴長など濡れても良い滑りにくい靴を履きましょう(転倒や尖った岩などがあり裸足は危険です)
- ・熱中症や日焼けに気をつけましょう
- ・万が一怪我や事故が起きたときのために、病院や緊急連絡先なども確認しておきましょう
- ・雨が降りそうな時、川の水が増水している時は、川に入らないようにしましょう



バクはかせ
から
みんなへ

屋久島の川には多くの生き物がいることが今回の調査で分かりました。その生き物たちは、それぞれが違う環境で生きています。同じ場所で見つけた生き物でも「石の下」「草の下」「落ち葉の下」「流れが速いところ」「流れが遅いところ」等のその生き物が好きな場所があります。多くの生き物がいるためには、それだけ多くの環境が必要なのです。そして、多くの種類の生き物がいれば、食べる食べられるの関係でつながり、人間が食べることでできる生き物も増えます。生き物がたくさんいて、おいしいものが食べつづけられる未来のために、今を生きる私たちができることをちょっと考えてみませんか？

NPO法人くすの木自然館
代表理事 浜本 麦



この「水圏生物調査による生物多様性保全プロジェクト」は、①屋久島の多様な生物を水域全体から把握し、②河川流域全体の調査にて把握した生物どうしのつながりから生物多様性の重要性を示すデータを収集することで、③プロジェクト終了後も生物多様性をより深く島民に伝えられるよう、上記調査を自分たちでできる人材を育成することを目的として活動しています。

〈委託事業〉
屋久島における生物多様性
保全事業(鹿児島県)

〈監修〉
特定非営利活動法人くすの木自然館
代表理事 浜本 麦

〈企画運営事務局・パンフレット制作〉
特定非営利活動法人
HUB&LABO Yakushima
mali.contact@hublabo.org

このパンフレットは、鹿児島県委託事業
「屋久島における生物多様性保全事業」
により作成しました。



AB 屋久島 河川の生き物

水圏生物調査生物多様性保全プロジェクト

屋久島の水辺から140種以上の生き物を発見！
水辺から屋久島の豊かさを伝える調査報告書

屋久島の川の特徴

屋久島の川の特徴は、「上流から海までが近い！」ということです。山に降った雨が山の栄養を蓄えながらしみこみ、地下水が集まって川になります。屋久島は、山が高く雨も多いため、多くの川があることも特徴の一つです。そのすべての川で水の量が山急な角度を流れてくるため、山の栄養をたくさん含んだまま海の近くまで流れることができます。普通の川なら山の奥の上流部に行かないとみられない生き物が、割と海から近い距離のところにもすむことができるのは、屋久島の川の特徴だと言えます。

森～川～海のつながり

森林は河川を通じて海とつながっています。海の豊かさを育むキーワードが「水の旅(循環)」です。水の旅は深い山の頂上付近から始まり、少しずつ大きな川になっていきます。上流から砂や土を運び河口でウミガメなどの命を育む砂浜を作り、そして川の水は海に流れ込み森の栄養を海へと届けます。最後は太陽に照らされ、蒸発し、空で集まり雲となり雨となって山に降り注ぐのです。水は、空から陸に、陸から海に、そしてまた空へと旅をしながら循環しています。



水のきれいさと生き物

生き物によって 好む環境がことなります。どのような生き物がすんでいるかを調べることによって、その地点の水のきれいさを知ることができます。

<p>水質階級 I きれいな水</p> <p>水が透き通っている。川底の石がよく見える。においがいい。</p> <p>指標生物 サワガニ ヘビトンボ(幼虫)</p> <p>ナミウズムシ、カワゲラ類、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ヤマトビケラ類など</p>	<p>水質階級 II 少しきたない水</p> <p>川の周りには畑があり、水が少し濁っている。石を持ち上げると生き物もたくさん見られる。苔のようなにおい。</p> <p>指標生物 スジエビ ヒラタドロムシ(幼虫)</p> <p>イシマキガイ、オオシマトビケラ、カワニナ類、ゲンジボタル、コオニヤンマ、コガタシマトビケラ類</p>
<p>水質階級 III きたない水</p> <p>人家からの排水が流れ込んでいる。川底は泥のような状態。ドロのようなにおい。</p> <p>指標生物 ミズムシ、シマイシビルなど</p>	<p>水質階級 IV 大変きたない水</p> <p>川の周りには人家や工場がいっぱい。川岸はコンクリートなどで作られている。川にはゴミがあり水もにごっている。ヘドロのようなにおい。</p> <p>指標生物 エラミミズ、ユスリカ類、チョウバエ類など</p>

令和3年度水圏生物調査結果

	夏季	秋季		冬季	全体
	9/21-22	10/21-22	11/21	12/15-16	
一湊川	45種	31種	25種	32種	74種
イテゴ川	63種	55種	25種	33種	100種
計	93種	75種	41種	56種	142種

今回の調査では 2 つの川で年間を通じて全体で142 種、そのうち絶滅が心配されている希少な生き物が 11 種見つかりました！その中には、あまりに希少なため採集が禁止されている生き物も…！？テナガエビやハゼの仲間など、川と海の繋がりを象徴する生き物が多く見られました。

詳細なデータについてはこちら



屋久島の生き物たち

※タメトモハゼは、鹿児島県の条例により、許可なく捕まえること、飼育することが禁じられています。

レア度 ★★★ 絶滅危惧種 I類～II類
★★★ 準絶滅危惧種
★★☆ ふつうにいる

他の生き物写真はコチラ



さかな レア度 ★☆☆



さかな レア度 ★★★



エビ・カニ レア度 ★☆☆



エビ・カニ レア度 ★★★



さかな レア度 ★★★



エビ・カニ レア度 ★☆☆



昆虫 レア度 ★☆☆



昆虫 レア度 ★☆☆

